

学生の確保の見通し等  
を記載した書類

国際芸術創造研究科  
アートプロデュース専攻  
(博士後期課程)

国立大学法人東京芸術大学

# 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

## (1) 学生の確保の見通し

### A. 定員充足の見込み

今回設置する「国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻（D）」の入学定員は5名と設定し、うち2名は外国人留学生を想定している。国立大学法人である東京芸術大学が設置する大学院新専攻として、他の国立大学法人同様、所謂「スクラップ・アンド・ビルド」による学生定員の設定を基本としており、既存の大学院組織（音楽専攻）から学生定員5名の振替を行いつつ、本専攻が目指すグローバル人材育成を視野に、留学生の受入拡充を想定した設定となっている。さらに、教員組織との関係においても、文部科学省が実施した「ミッション再定義」にも明確に示されているとおり、本学においては「少人数教育」を最も重要視すべきであることから、このことを踏まえた研究指導体制の確保にも留意しつつ、本専攻の入学定員を設定している。

具体的には、本専攻において設定する3つの領域において、専任教員6名が配置され、「1領域当たり専任教員2名」で研究指導等を担当することになるが、学生入学定員との関係では、1領域当たりの学生数は約1.7名程度で配置されることになり、さらに、収容定員ベースで見ると1領域当たり5名程度となる。

つまり、専任教員1名当たりが担当する平均的な学生数は、1学年当たり1～2名、3学年全体では約4～6名となる。

区 分	アートマネジメント領域	キュレーション領域	リサーチ領域
配置教員数 (教員1人当担当学生数)	2名 (教員1名当たり 4～6名の学生を担当)	2名 (教員1名当たり 4～6名の学生を担当)	2名 (教員1名当たり 4～6名の学生を担当)

この5名という定員数は、本研究科修士課程在学学生に対するアンケート結果や、本専攻博士後期課程の前身となる研究領域への外部からのこれま

での出願実績、注目されている新研究領域が追加されていること等、以下に述べる諸条件に照らしてみると、単に定員を確保するにとどまらず、十分な競争性が確保できる定数設定である。

## B. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上記A.に示したとおり、今回、本専攻において設定する5名規模の入学定員の確保・充足が確実であり、さらに入学者選抜における競争性が確保されることを示す具体的な根拠データとして、本研究科の大学院生（修士課程）からの学内進学ニーズに係るアンケート調査結果を以下のとおり示す。

「国際芸術創造研究科博士後期課程設置検討のための調査」

〈調査概要〉

- ・ 調査実施期間：平成28年12月26日～29年1月6日
- ・ 調査対象：国際芸術創造研究科 修士1年 14名
- ・ 回答数：14（回答率100%）

**調査様式、調査結果は添付資料1参照**

同アンケート調査においては、まず最初に、修士課程での研究内容・卒業後の進路希望を調査した。そのうえで、もし国際芸術創造研究科 博士後期課程が設置されたら進学したいか質問した。

博士課程への進学希望についての調査結果を見ると、「是非進学したい。」が2名、「興味があるので進学を検討したい。」が4名であった。

アンケート調査とは別のデータであるが、国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻には①アートマネジメント、②リサーチ、③キュレーションの3分野がある。

このうち①と②はすでに本学の音楽研究科に既存の専攻として設置されており、その研究内容は新しく設置する国際芸術創造研究科 博士後期課程が引き継ぐため、その志願者も引き継ぐこととなる。外部からの進学見込みについて①と②の過去5年間の出願状況を見ると、平均4.2名の出願実績がある。

※添付資料2参照

上記の志願者見込みを合計すると、10.3名+ $\alpha$ （海外からの出願者）程度の出願者が見込まれる。5名の定員を充足させるには十分であり、なおかつ質の高い選抜が行えることがわかる。

（詳細：10.3名の内訳）

- (1) 内部からの進学見込 4名  
（是非進学したい2名+（検討したい4名/2））
- (2) 外部からの進学見込 4.2名  
（上記①アートマネジメントと②リサーチの5カ年平均）
- (3) 外部からの進学見込 2.1名  
（上記③キュレーションの見込）（（2）の半分）

またアートプロデュース専攻の平成29年度外国人学生入試においては、定員3名のところ、4倍を超える13名の出願者があったことから、博士後期課程においても、海外からの出願者があることが十分見込める。

## C. 学生納付金の設定の考え方

学生納付金に関しては、検定料36,000円、入学料338,400円、及び授業料535,800円として設定する予定であるが、これは本学大学院における共通の料金設定であるとともに、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に基づく設定であることから、妥当適切であると考えている。

### (2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

学生確保に向けた取り組みは、主として2つある。

1つめは「art&education」という専門分野のメーリングリストへ広告を出すことである。 ※添付資料3参照

2つめは本研究科の教員が出張した際、現地で直接広報活動を行うことである。

特に外国人留学生へのアピール力が強く、外国人留学生（修士）の志願者募集に関して上記の取り組みを行った結果、昨年度は3名であった志願

者が本年度は13名に増加した。

実際に情報を伝達してみると反応はよいことから、「進学ニーズはあるが情報がいきわたっていない」ということがわかった。引き続きメーリングリスト広告や現地での広報活動を行うことで、きめ細かく情報をいきわたらせ、志願者を獲得していく。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

国際芸術創造研究科は、国内外に広く人材を求め、美術、音楽、映像といった各芸術分野の実践を国際的かつ横断的に社会に発信する実践家や、そのような社会と芸術の関係を研究する研究者の養成を目的としている。中でも博士後期課程においては、高度な理論に裏付けられた、斬新かつ世界的なアートプロジェクトや展覧会を指導的立場で包括的にマネジメントできる人材や、日本はもとより世界各地で数多く設置されるに至った、この分野の課程を有する大学等の教育研究機関における、教育研究者を育成することを目指している。このような内外の人材が国際的に活躍することで、我が国の「文化芸術立国」としてのプレゼンスの確立に貢献することが目的である。

### (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

本専攻においては、かねてから必要性が指摘されているにもかかわらず、専門家が少ないために慢性的に人材不足が指摘されている分野の人材育成を目指している。芸術分野のB to Bにおいては、人材（作家や実演家と画商やコンサートホールなどとの繋ぎ手等）が不足しているどころか枯渇しているとまで言われており、早急に人材を養成する必要がある。特に、東京芸術大学という芸術文化資源の集積において、さまざまな芸術活動の実践を分野横断的に結びつけて新たな芸術価値を創造し、国際的に展開する先導的かつ高度な実践型人材育成や、そのような人材育成を担う教

育研究者の養成は、社会の要請に合致するものである。

国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻には①アートマネジメント、②リサーチ、③キュレーションの3分野がある。このうち①と②はすでに本学音楽研究科博士後期課程音楽文化学研究領域に置かれていた芸術環境創造と応用音楽学を母体としている。この両分野の修了生の就職状況を見ると、フェスティバルトーキョー実行委員等、アートマネジメントを実際に行う人材として就職している他、関係分野の高等教育機関に多くの教員を輩出している。 ※添付資料4参照

国際的にも多くの高等教育機関においてアートプロデュース分野の課程等が設けられている（「設置の主旨等を記載した書類」資料4, 6参照）が、日本のアートプロデュース関連の課程等（研究室や講座レベルで設置されているものを含む）を有する高等教育機関はすでに73に達しており、内外において今後も引き続きこの分野の人材が養成されるものと見込まれる。 ※添付資料5参照

また本学において実施した企業アンケートの結果、アートプロデュース分野に於ける高度な実践家への期待も極めて高いことが明らかとなっている。そのアンケート調査の結果は以下のとおりである。

「東京芸術大学の新研究科及び専攻設置に関する調査」

〈調査概要〉

- ・ 調査実施期間：平成29年1月7日（土）～1月14日（土）
- ・ 調査対象：東京芸術大学にて行われた合同企業研究セミナーに参加した企業 33機関
- ・ 回答数：19機関（回答率57.6%）

調査様式、調査結果は添付資料6参照

同アンケート調査においては、まず最初に「国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻」の概要を説明した上で、博士後期課程設置に関して今後どのような点に積極的に取り組むべきか質問した。

・ 7項目の中では、「実践に基づく教育研究指導を行い、芸術関連機関の総合プロデューサーを養成すること。」への期待が最も高く、次いで「芸術活動の国際化・多様化に対応するための教育研究指導を行い、社会ニ

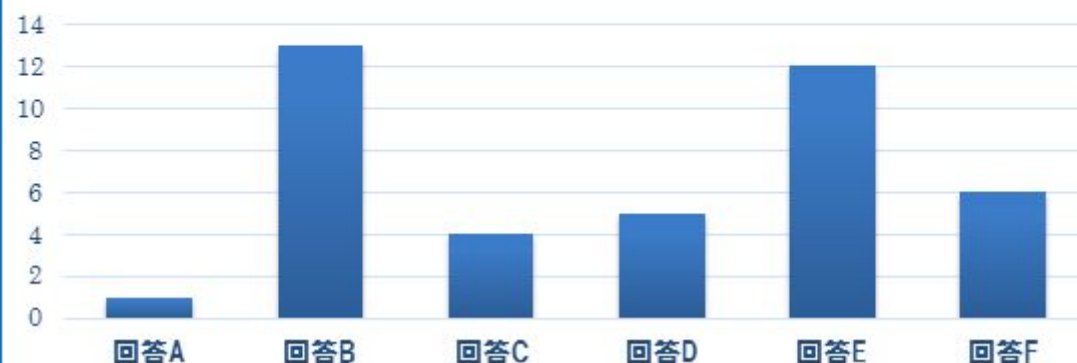
ズに応える総合的なアートマネジメント能力を持った人材を養成すること。」への期待が高かった。

アンケートにおける自由記入欄への回答では、以下のような回答があった。「日本では優れた技術・作品でも総合プロデューサーや、発信力が伴わず、十分な評価が得られていないものが多いのではないかと思います。よって、非常に重要で貴重な取り組みだと期待しております。」**企業側は日本には優れた技術や作品を生み出す力はあっても、総合プロデューサー力や発信力が足りないため、“発信”できる人材が必要だ**と考えており、まさに今回新設する「国際芸術創造研究科 アートプロデューサー専攻 博士後期課程」における**人材養成目的や教育研究目的と合致している**ことが確認された。

さらに、同アンケート調査においては、**「アートプロデューサー専攻博士後期課程の人材養成について、今後の芸術活動やグローバルな展開、社会に対する還元等において期待するか」**について質問している。

その結果、**企業等からの回答においては、「大いに期待する」との意見が大半を占めており、「少し期待する」までを含めると、およそ9割が期待する旨回答**しており、博士後期課程における人材養成や教育研究活動等について強い期待が寄せられていることが確認された。

**Q1.国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 博士後期  
課程設置に関して、積極的に取り組むべきだと思う  
こと**



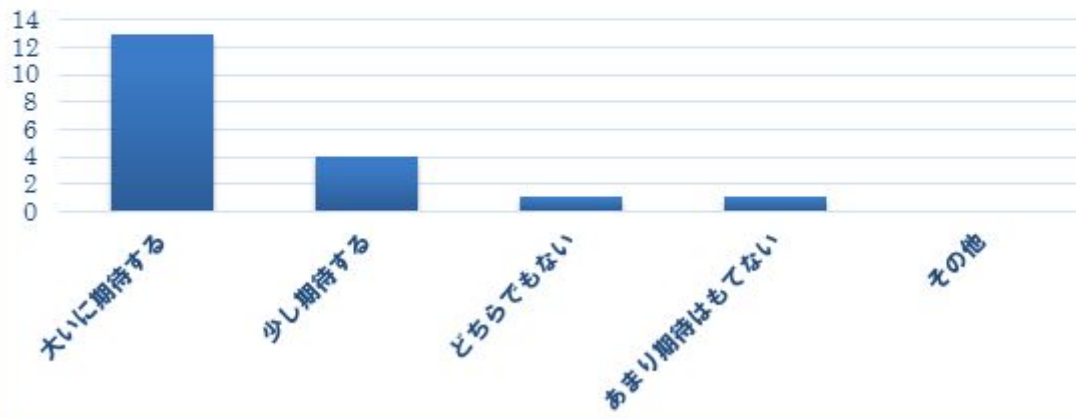
A	実践に基づく教育研究指導を行い、国際舞台で活躍できるキュレーターを養成すること。
B	<b>実践に基づく教育研究指導を行い、芸術関連機関の総合プロデューサーを養成すること。</b>
C	実践に基づく教育研究指導を行い、国・自治体等で芸術文化行政を牽引する人材を養成すること。
D	今後、芸術活動を、社会との関係性を踏まえて発信していくためのマネジメント教育研究指導を行い、国・自治体等の芸術関連施策を踏まえた実践と研究を行える専門的人材を養成すること。
E	<b>芸術活動の国際化・多様化に対応するための教育研究指導を行い、社会ニーズに応える総合的なアートマネジメント能力を持った人材を養成すること。</b>
F	アートマネジメントにかかわる総合力・実践力を身につけるため、国際的かつ領域横断的な教育研究指導を行い、国内外の高等教育における芸術文化の教育研究に関わる人材を育成すること。

← 期待一位

← 期待二位



**国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 博士後期課程の  
人材養成について、今後の芸術活動やグローバルな展開、  
社会に対する還元等において期待しますか。**



※添付資料4 参照

## 【学生の確保の見通し等を記載した書類 別添資料目次】

資料1-1 「調査結果 博士課程設置に関するアンケート（学生向け）」

資料1-2 「調査様式 博士課程設置に関するアンケート（学生向け）」

資料2 「東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程 音楽文化学（応用音楽学・芸術環境創造）入試実施状況」

資料3 「art&education メーリングリスト広告」

資料4 「博士号取得者の就業実績」

資料5 「日本のアートプロデュース関連の課程等を有する高等教育機関」

資料6-1 「調査結果 博士課程設置に関するアンケート（企業向け）」

資料6-2 「調査様式 博士課程設置に関するアンケート（企業向け）」

集計結果 博士課程設置に関するアンケート（学内院生向け）

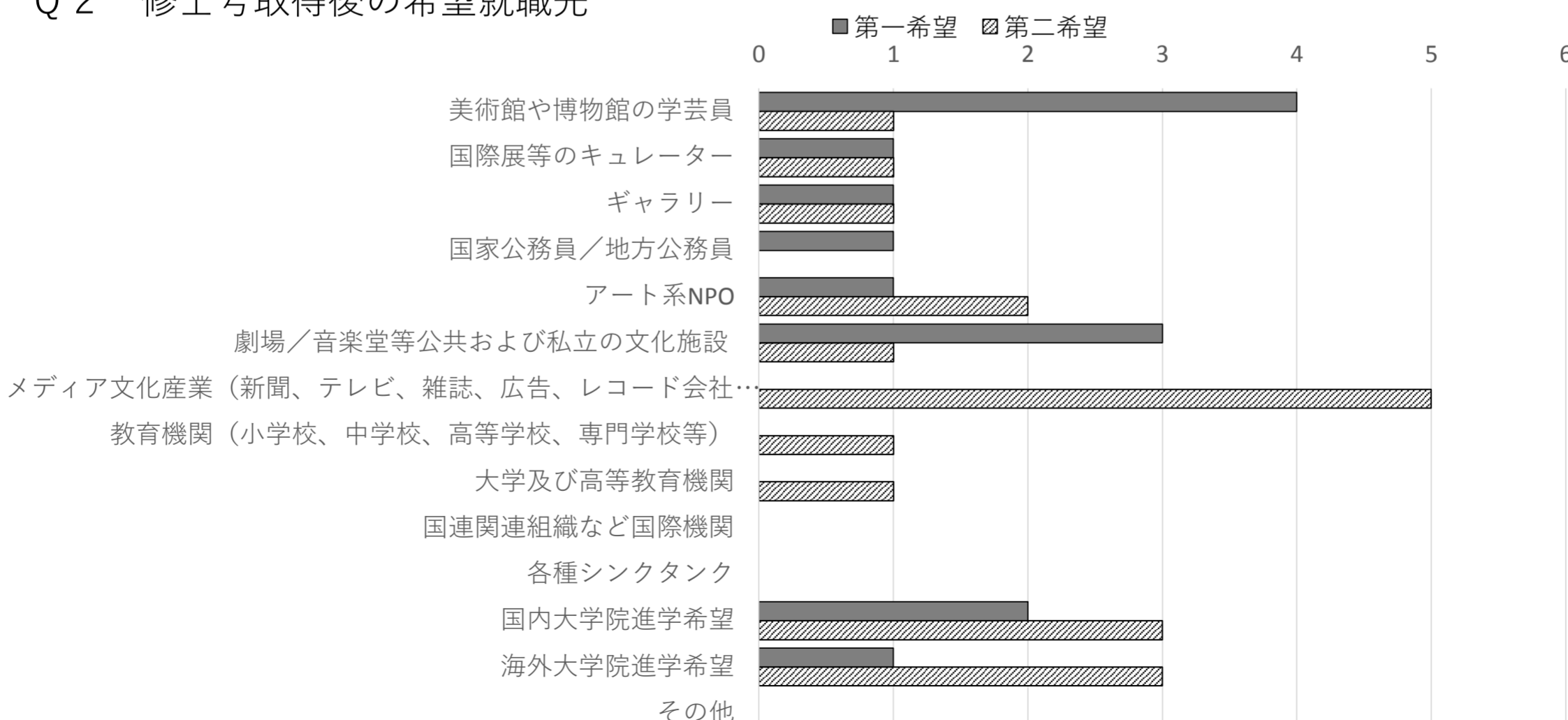
アンケート回収数 14名

学年	修士1年	14名
年齢	23歳～28歳	
性別	女性	8名
	男性	6名
学位	修士（学術）、学士課程学位（映像学）、音楽、Certificate in Fine Arts, Bachelor of FA Major in Painting	
日本人・留学生	日本人	11名
	留学生	3名
研究領域	キュレーション	7名
	アートマネジメント	4名
	その他	3名

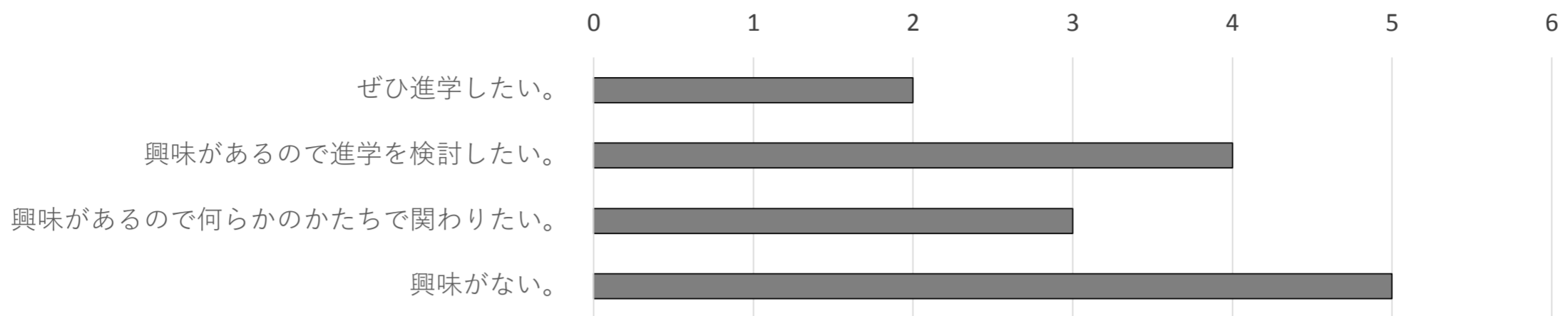
Q 1 研究テーマ

- ・未定
- ・展覧会の女性学・ジェンダー・フェミニズム分析
- ・オークションにおけるアートの価値
- ・キャロライン・クリストフ＝バカハギエフに見られる思弁的実在論と女性のキュレーションの検討
- ・日本となじみのない地域（海外）と日本とのアートプロジェクトの実践
- ・社会的課題に関する美術館とアーティストの共同について
- ・近代産業遺産をリノベーションした美術館：日本と韓国を中心に
- ・「社会的デザイン」からみた複合芸術文化施設～シンガポール・エスプラネード劇場を事例に
- ・The Ethico-aesthetics, Body, Hikikomori, Foreign Trainee Workers
- ・日本の劇団制に着目しフィールドワークを通じて演劇の創作システムの実態を考察する
- ・音楽の実践の場における人々の「共在の様態」に関する研究
- ・ミュージカルにおけるローカリゼーション
- ・ホワイトキューブ空間再考のための「White Cave」展実施
- ・Landscape and Photography

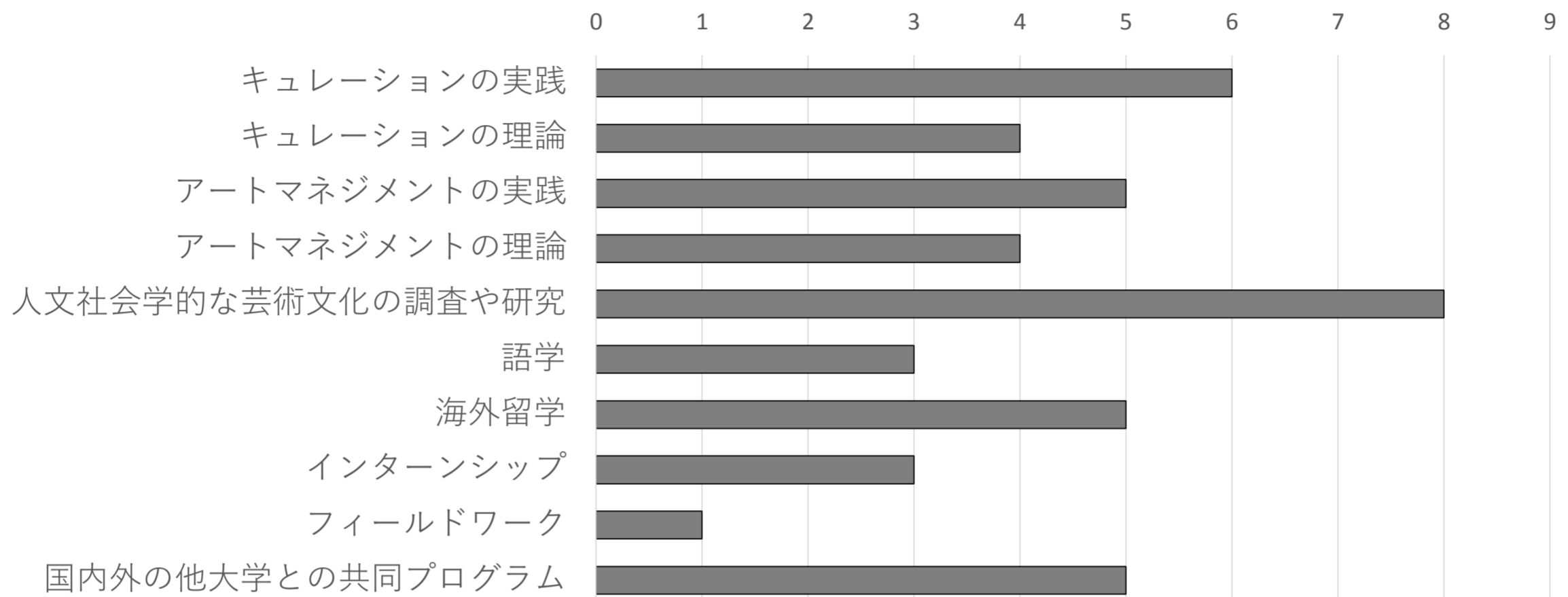
Q 2 修士号取得後の希望就職先



### Q 3 博士課程への進学についての希望

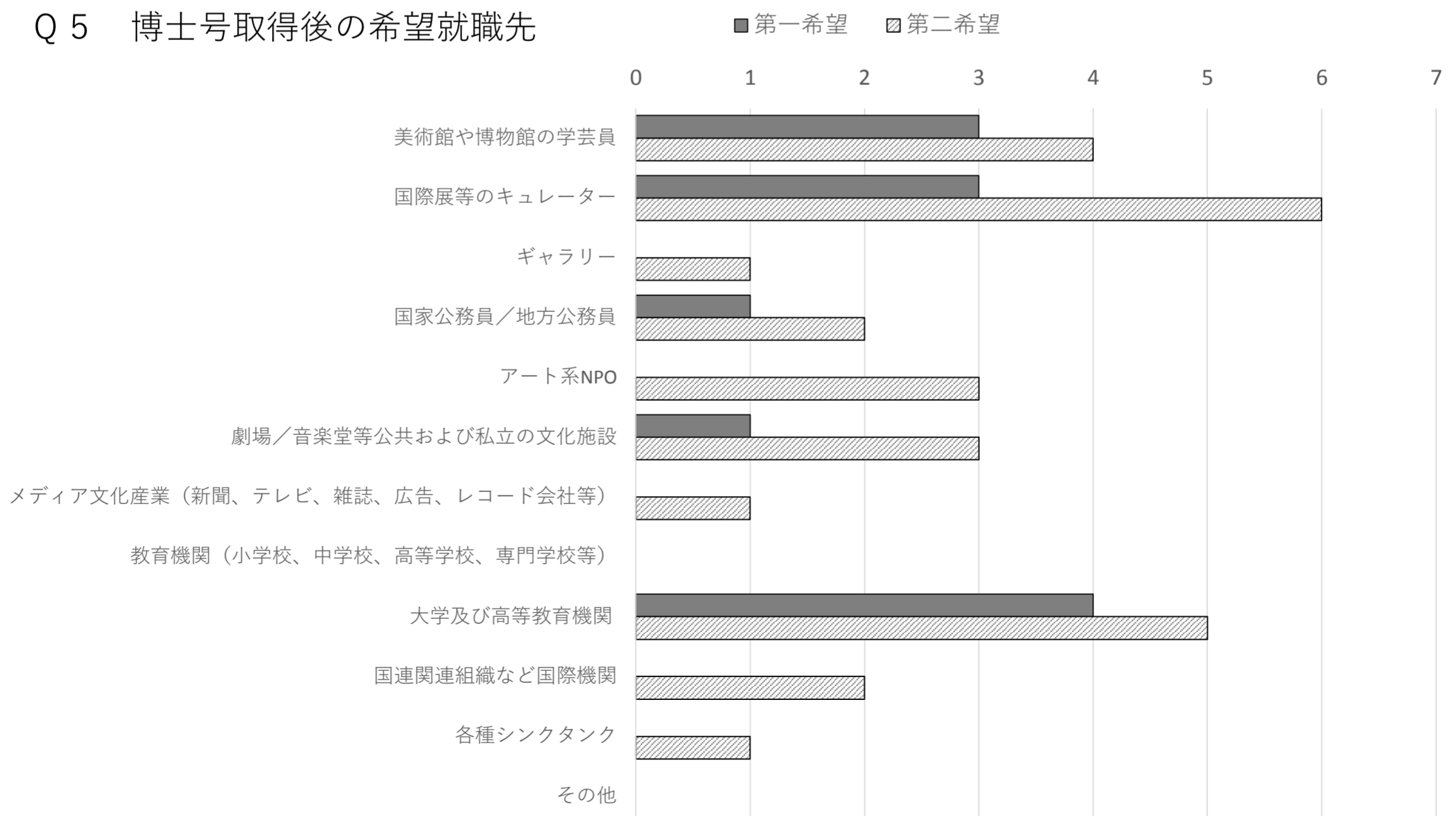


### Q 4 博士課程の教育プログラムへの関心



(参考) 言語への興味	英、仏x3、独x2
留学先の希望	イギリス、ドイツ、フランス、 インド、香港、欧州、RMIT Univ. Melbourne
インターンの希望	ZKM、RCA、アーツスペース関連（美術館も含む）
他大学との共同	慶応大学、東京大学、京都造形大学
フィールドワーク	アジア

### Q 5 博士号取得後の希望就職先



国際芸術創造研究科博士後期課程設置検討のための調査  
Questionnaire for preparation for doctoral course

調査票 Questionnaires

学年 Your Academic Year

年齢 歳 Age

性別 男 女 (いずれかに○) Gender F/M

これまで取得した学位 (学部以降) Degrees you have obtained after undergraduate

日本人学生・留学生の区分 (いずれかに○) 日本人・留学生 Japanese or Exchange student

現在の研究領域 (いずれかに○) Your Major

キュレーション・アートマネジメント・リサーチ

Curatorial Studies / Arts Management / Research

-----

(質問 1) 現在の研究テーマを教えてください(40 字以内)

What is your current research topic?

(質問 2) 修士号取得後にどのような仕事に就きたいと考えていますか (第一希望に二重丸、第二希望に○を付けて下さい。第二希望は複数回答可)

What kind of career would you like to pursue after graduation? Please leave XX for the first choice (only one), and X for the second (as many as you wish).

- ① 美術館や博物館の学芸員 Curator in Museums and Institutions
  - ② 国際展等のキュレーター Curator in International Exhibitions
  - ③ ギャラリー Gallery
  - ④ 国家公務員／地方公務員 Civil Servant (National or for Municipalities)
  - ⑤ アート系 NPO Non-profit Organization for the Arts
  - ⑥ 劇場／音楽堂等公共および私立の文化施設 Theatres and Concert halls (private or public)
  - ⑦ メディア文化産業（新聞、テレビ、雑誌、広告、レコード会社等） Media (Newspapers, TV, Magazine, Advertisement, Music companies etc.)
  - ⑧ 教育機関（小学校、中学校、高等学校、専門学校等） Education (Elementary, Junior-high or High schools, Academies)
  - ⑨ 大学及び高等教育機関 (Universities and Collages)
  - ⑩ 国連関連組織など国際機関 (International organization such as UN)
  - ⑪ 各種シンクタンク (Research think-tanks)
  - ⑫ 国内大学院進学希望 (Further study for doctoral degree within Japan)
  - ⑬ 海外大学院進学希望(Further study for doctoral degree abroad)
  - ⑭ その他（ ） Other (Please specify)
- ※ その他を選んだ人は、可能な限りで具体的に挙げてください。

（質問3）現在国際芸術創造研究科では、博士課程の設立に検討をしています。もし博士課程が設置されるとすれば興味がありますか。一つ選んで○を付けてください。

We are considering opening doctoral courses at GA. Would you be interested in to apply?  
Please select one from the followings.

- ① ぜひ進学したい。 Yes, would like to apply.
- ② 興味があるので進学を検討したい。 Yes, interested in it and will consider applying it.
- ③ 興味があるので何らかのかたちに関わりたい。 Yes, interested in it and would like to take part of it somehow.
- ④ 興味がない。 No, not interested in.

（質問4）  
新しく博士課程ができるとしたらどのような教育プログラムに関心がありますか。○を付

けて選んで下さい。(複数回答可)。

For the new doctoral course, which of the following would be your interest? Please select as many as you wish.

- ① キュレーションの実践 Practical training of curatorial studies.
- ② キュレーションの理論 Theory of curatorial studies
- ③ アートマネジメントの実践 Practical training of Art Management
- ④ アートマネジメントの理論 Theory of Art Management
- ⑤ 人文社会学的な芸術文化の調査や研究 Research program for humanities or arts and culture
- ⑥ 語学【興味のある言語を記述して下さい】 Languages (Please specify)  
( )
- ⑦ 海外留学【興味のある留学先(国または大学名)を記述してください】 Studying abroad  
(Please specify name of the country of university you wish to study)  
( )
- ⑧ インターンシップ【具体的に希望があれば記述してください】 Internship (Please specify)  
( )
- ⑨ フィールドワーク【具体的に希望があれば記述してください】 Fieldwork (Please specify)  
( )
- ⑩ 国内外の他大学との共同プログラム【興味のある大学があれば記述してください】 Joint Program with other universities (Please state if you have any university in mind)  
( )

(質問5)

もし博士課程に進学した場合、博士号取得後にどのような職種に就くことを希望しますか  
○を付けて回答して下さい。(第一希望に二重丸、第二希望に○を付けて下さい。第二希望は複数回答可)

If you have applied to doctoral course, what kind of career would you be interested in after obtaining your Ph.D.?

- ① 美術館や博物館の学芸員 Curator in Museums and Institutions

- ② 国際展等のキュレーター Curator in International Exhibitions
- ③ ギャラリー Gallery
- ④ 国家公務員／地方公務員 Civil Servant (National or for Municipalities)
- ⑤ アート系 NPO Non-profit Organization for the Arts
- ⑥ 劇場／音楽堂等公共および私立の文化施設 Theatres and Concert halls (private or public)
- ⑦ メディア文化産業（新聞、テレビ、雑誌、広告、レコード会社等） Media (Newspapers, TV, Magazine, Advertisement, Music companies etc.)
- ⑧ 教育機関（小学校、中学校、高等学校、専門学校等） Education (Elementary, Junior-high or High schools, Academies)
- ⑨ 大学及び高等教育機関（Universities and Collages）
- ⑩ 国連関連組織など国際機関（International organization such as UN）
- ⑪ 各種シンクタンク（Research think-tanks）
- ⑫ その他（ ） Other (Please specify)



## 東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程 音楽文化学(応用音楽学・芸術環境創造)入試実施状況

H24	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部
応用音楽学	2	2		1				
芸術環境創造	3	3	4		3		3	
合計	5	5	4	1	3	0	3	0

H25	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部
応用音楽学	1		1		1		1	
芸術環境創造	1	5	1	5		3		2
合計	2	5	2	5	1	3	1	2

H26	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部
応用音楽学	1	1	1	1		1		1
芸術環境創造		4		4		1		1
合計	1	5	1	5	0	2	0	2

H27	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部
応用音楽学								
芸術環境創造		4		4		3		3
合計	0	4	0	4	0	3	0	3

H28	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部
応用音楽学								
芸術環境創造	2	2	2	2	2	1	2	1
合計	2	2	2	2	2	1	2	1